

BIBLE + MESSAGE

女が子を産むときには、その時が来たので苦しみます。しかし、子を産んでしまうと、ひとりの人が世に生まれた喜びのために、もはやその激しい苦痛を忘れてしまいます。(ヨハネ 16 章 21 節)

聖書のなかには出産に関する御言葉が多く記されています。イエス・キリストも上記の御言葉のように、女性が子どもを産む時の苦しみについて述べています。それは「激しい苦痛」だとあります。しかし、子どもが生まれると、その喜びのために、苦痛を忘れてしまうのです。それほどまでに、ひとりの人が生まれるということは、大きな喜びだということでしょう。

実はこの御言葉は、キリストが受けようとしていた十字架の苦しみをあらわすものとして述べられたものです。キリストはすべての人間の罪をその身に負われ、大きな苦しみを受けて死なれました。しかし、死んで三日目の朝、キリストはよみがえられたと聖書は教えています。弟子たちにとって、イエス様の死は大きな悲しみでした。しかし、その悲しみは復活をとおして喜びに変わったのです。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アピタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前 10 時～ 10 時 45 分 【礼拝】日曜：午前 11 時～ 12 時半
【午後の集会】日曜：午後 3 時～ 4 時半 【聖書研究会】木曜：19 時半～ 21 時

聖書を読んだ日本人

(前号からの続きです)

大河ドラマ「西郷どん」が盛り上がりつつあります。松田翔太演じる一橋慶喜が、ついに將軍になる覚悟を決めました。前回の放送では、慶喜が井伊直弼に向かって、その決意を語る場面が終わってしまっただので、続きが気になって仕方ありません。今後の展開から、まさに目が離せない状況です。

さて、前号で西郷隆盛が聖書を所持し、読んでいたことに触れましたが、実は聖書を教えたこともあるようです。2007年12月8日付けの南日本新聞において「西郷さんは聖書を教えた」という見出しの記事が掲載されました。この記事のなかで、鹿児島市下福元町に住む川邊二夫さん(72)は次

のように証言しています。「中学生の時、父から『西郷さんは家に来て、耶蘇(キリスト)を教えてくれた。漢文の分厚い本を持ってきて先祖の衆(ひいお爺さん)に教えられた』と聞かされた」。この証言を聞いた西郷南洲顕彰館の高柳館長は、「聖書を読んでいたのは分かっていたが、教えていたとは驚き」と答えたそうです。一方、西郷隆盛のひ孫の隆文氏は「聖書は読んでいたかもしれないが、忙しい身で(聖書の教えを)普及させていたとは思えない。死後百三十年たった今も謎が多く、いろんな切り口で情報が出てくる。まだまだ生きているとびっくりする」と話しています。

果たして西郷さんは、聖書をど



東京上野公園の西郷隆盛像の裏にある「敬天愛人」の碑

れほど理解していたのでしょうか。キリストへの信仰を持つたのか。あるいは人に伝道するほどであったのか。それはわかりません。しかし、彼の残した言葉「敬天愛人」や、その人生の歩みを見る時、そこに聖書の影響があったことは間違いありません。



西郷 隆盛
(さいごう たかもり)
1828年～1877年